

参考資料

空想旅行案内人 ジョーニ・ミッシェル・フロロニ



会場—東京ステーションギャラリー「東京駅丸の内北口改札前」
電話番号—03・3212・2485 ウェブサイト—<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>
主催—東京ステーションギャラリー「公益財団法人東日本鉄道文化財団」、東京新聞
協賛—T&D保険グループ
巡回予定—2025年1・3月名古屋、2025年4・6月大阪

〈大天使〉水彩、2003年、フロロニ財団
© Fondation Falon, ADAGP/Paris, 2023

広報お問い合わせ先 |
東京ステーションギャラリー 学芸室 (羽鳥)
ahatori@ejrcf.or.jp Tel.03-3212-2763

 東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

2024.7.13 Sat.
→ 9.23 Mon.

仮称

「私はいつも空を自由に飛んで、風や空と話してみたりと思ってるのです。」

ジャン＝ミッシェル・フォロン (Jean-Michel Folon 1934-2005) は、

ベルギーが生んだユニークなアーティストです。ブリュッセルで少年期を送り、20歳過ぎにパリに移ってデッサンの修業を積んだフォロンは、まず雑誌の表紙や小説の挿絵で評価を得ました。その後、水彩や版画による広告やポスター、コラージュ、舞台美術、壁画などに活動の幅を広げ、80年代以降は彫刻も手がけるなど、マルチな活躍をみせました。

詩的でユーモアに富み、やわらかな色彩とかるやかなタッチで表現されたフォロンの作品は、みる人を空想の旅へと連れ出してくれます。そこに展開されるイメージは、幻想的でありながらもどこか私たちの日常とつながっており、ときにこの世界で起こっているさまざまなことからへの気づきをもたらす、豊かなメッセージ性をももたらしています。

フォロンの没後20年、そして彼が生前に設立したフォロン財団の25周年を記念する本展は、絵画やポスター、挿絵、そして彫刻を含む多彩な作品によって、そのあたたかく深遠な魅力をご紹介します。



「みみをあませば世界が動いてゆるのが聞えてこえてきます。」



フォロン (フランス、ヒュルシーにて) 1980年頃、フォロン財団 © Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2023

- ①《無題》カラーインク
 - ②『世界人権宣言』表紙 (原画)、水彩、1988年
 - ③《無題》インク
 - ④《無題》カラーインク・コラージュ
 - ⑤《グリーンピース 深い深いトラブル》ポスター、1988年
 - ⑥《letter 32 全ての人にオリベッティを》ポスター、1967年
 - ⑦《秘密》ブロンズ、1999年 © photograph by Fernandez
- *すべてフォロン財団蔵
©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2023

フォロン財団は、2000年にフォロン自身によって、彼の作品の保管と一般公開を目的に、ベルギーの首都ブリュッセルから車で20分ほどの、現在は公園となっているワロン地域圏の森の中に設立されました。そこは戦時中に幼いフォロンが一家で疎開した村の近くという、フォロンにとって思い出深い場所でした。227ヘクタールもの自然豊かな公園には、フォロンが自らデザインした美術館が建ち、訪れた人々に言葉を超えた彼のメッセージを伝えています。